

文芸大賞

「瑠璃色の」の巻

岐阜市

津田

公仁枝

捌

瑠璃色のグラスを満たす梅酒かな

碧 理子

窓に寄りくる小さきかなぶん

奥山 ゆい

遠くより列車の音の聞こえきて

塚本 六可

アプリを開き山裾の道

大竹 花永

皓々と湖照らす望の月

津田 公仁枝

オープンカフェに揺るるコスモス

服部 華宵

林檎なら丸齧りする彼が好き

華宵

二人で描く夢の未来図

理子

学校をカンボジアにと声高に

ゆい

表情豊か手話の通訳

公仁枝

どこまでも続く堤に花満つる

花永

春日を浴びてベビーカー行く

華宵

シヤッターを切るまでふはり石齧玉ナオ

いつも鞆に漫画本など

愛猫は喉を鳴らして擦り寄りて

数多居る中君に決めたよ

サッカーもゴルフも恋も意のままに

ダウンコートを軽く着こなす

四角なる空に都庁と冴ゆる月

鎮守の杜に眠る鳥たち

聞き慣れぬ言葉巷に溢れをりノウ

担々麺に並ぶ昼時

たをやかな風と遊べる花吹雪

清明の陽にかざす掌

六可

ゆい

公仁枝

花永

ゆい

公仁枝

華宵

花永

六可

花永

ゆい

六可

首 令和七年七月七日

尾 令和七年九月一日

於 ハートフルスクエアG

優秀賞

「草の露」の巻

千葉県 小原 千秋 捌

消ゆるまで落ちぬ覚悟の草の露 小原 千秋

いざよふ月に渡る初鴨 杉山 豚望

障子貼る母は剃刀啣へゐて 楠崎 陽子

銀縁眼鏡どこに置いたか 千秋

稚児^ウ載せて長刀鉾のぐらと揺れ 豚望

レース手袋はめる辻占 陽子

マサヒロは愛の遍歴ぐだぐだと 千秋

蔵の隅には恋文の束 陽子

目の細き猫を撫でつつ語る夢 豚望

関税率は気分次第で 豚望

異次元に誘ふ洞に花の舞ひ 千秋

轟る広野モンゴルの旅 千秋

虻^{ナオ}はらひ膝の瘡蓋搔きゐる子 豚望

甘酢だれ濃きチキン南蛮 陽子

軽快なジャズにベースのよく響き 豚望

じゃんけんぽんで決める人生 千秋

閨の中泣いて剥がるるつけ睫毛 豚望

雪女郎とて抱けばすぐ溶け 陽子

無住寺の五輪卒塔婆に月凍てて 陽子

縄目模様のゆがむ酒壺 千秋

辞書^{ナウ}を手に英字新聞読みふけり 陽子

オープンカーの心地よき風 陽子

花おぼろ海賊の島遠くして 千秋

ジヨギングの足伸ばしうららか 豚望

首 令和七年九月六日

尾 令和七年九月七日

於ズーム

優秀賞

「震災忌」の巻

大垣市 名和 よちゑ 捌

蜜を吸ふ黄蝶は羽を揃へたり
佐和子

はなし上手な彼にウインク
節子

とりどりの洋酒が並ぶカウンター
伯哉

おばさんだつて愛が欲しいの
亜蘭

釣堀を覗きこむのは狸らし
佐和子

夜長のニュース首相退任
よちゑ

赤銅の皆既月食そぞろ寒
伯哉

芒ゆらゆら風に靡きて
佐和子

買物はシルバーカーで二十分
亜蘭

冷凍野菜調理時短で
よちゑ

村人に守り継がれて花大樹
佐和子

大空渡る春の雁
節子

首
令和七年九月一日

尾
令和七年九月八日

於 大垣イベントハウス

よちゑ

参道の古木の花の芳しく

遠く近くに鳥の囀り

チケットはプレミアム付き話題作

拘りの味おすすすめの店

伯哉

亜蘭

ポンと俄にライン飛び込む

亜蘭

節子

伯哉

亜蘭

片恋のクリスマススイブラジオ聴き

伯哉

伯哉

伯哉

伯哉

伯哉

毛布代はりに猫を抱へる

島

島

島

島

島

島

若者は地下に集ひて反戦歌

節子

節子

節子

節子

節子

節子

節子

母の手紙はポケットの中

樗木

樗木

樗木

樗木

樗木

樗木

樗木

樗木

天窓に映る満月輝きて

高木

高木

高木

高木

高木

高木

高木

高木

高木

震災忌未だ使はぬヘルメット

名和

水屋の奥に蟋蟀の声

衣斐

衣斐

衣斐

衣斐

衣斐

衣斐

衣斐

衣斐

衣斐

衣斐